

令和8年度 宇治市乳幼児教育・保育協働研修通信

知りたい・知ってほしい研修

第10回開催 令和8年9月11日(金)

テーマ

「子どもの発達について」
～1歳から2歳ごろ～



参加者内訳: 保育所(園)7名・幼稚園1名・認定こども園3名・小学校1名・療育施設3名
関係部署の職員9名

講師



◆京都府立大学 社会科学部
教授

服部 敬子 先生



※ この研修通信は、研修での学びを広く共有するために、研修後の参加者の振り返りシートをもとに作成・発行しています。

園(校)内研修や日々の振り返りにご活用ください。

次回の研修へのご参加もお待ちしております。

ご質問等がございましたら、下記メールアドレスまでお気軽にお問い合わせください。

nyuyojicenter@city.uji.kyoto.jp





講演からの学び

講演の中で最も心に残ったこと(参加できなかった仲間にも知らせたいこと)



「新しい発達の原動力」

- ・ 次の発達段階にいくために力を蓄えていく時期、それが「新しい発達の原動力」である。
- ・ 「〇〇もってきて、ちょうだい」が通じない場面で「分かってない」と決めつけず、1歳児の発達の道筋を正しく理解する。
- ・ 「子どもの気持ちを受け止める」ことで、子どもが安心感をもち、納得できることが大切」は、どの年齢にも通じる。
- ・ 右利き・左利きのお話（親は右利きに直したが、左利きの良さもあること）が参考になった。



「大人の心づもり」が子どもの姿を変える

- ・ 魔の2歳児をイヤイヤ期ではなく「ブラブラ期（ブラブラして生活を楽しみたい時期）」と捉え直す。
- ・ 「子どもをイヤイヤ言わせているのは、ある意味大人」であり、自分の心づもりが大切
- ・ 「デザートは最後」は大人の思いであり、子どもは納得できない。子どもの思いを受け止める。



「自我の誕生」と試行錯誤

- ・ 「自我の主人公である子どもを一番手にすると、二番手の大人の援助を受け入れようとする」。
- ・ 一番最初は子どもの思いを受け止め、タイミングをみて二番目に援助をする。
- ・ 失敗から学ぶことが大事。つい手を出さず、自分で試して確かめられる機会と時間を設ける（小学校低学年にも共通）



「場面の切り替え」より「締めくくり」を大切に

- ・ 次へ次へと思わず、その子が今夢中になっていることに対して共感し、やったことに対する受け止め・締めくくりを大切にする。
- ・ “切り替えが悪い”と方略を練る前に、切り換えに向かえる気持ちのやり取りが出来ているのが重要



「しかけ」が教育・保育の要

- ・ 保育に絶対無二の「正解」はない。
 - ・ 見守るだけでは育たず「しかけ」が重要
 - ・ 共感する時の声の音量に気をつける。
- 「気持ちの流れ、盛り上がりを読んで、タイミングを計りつつ声をかける」





感想交流での気付き

感想交流の中で最も心に残ったこと(参加できなかった仲間にも知らせたいこと)



「保護者」を支える

- ・ 片付けでまだ遊びたいとぐずる子に、保護者が周りの目を気にして制止してしまう場面では、待つことの大切さや、タイミングをみた声かけの大切さを保護者へ伝えていきたい。
- ・ 保護者の戸惑いに、より良い声かけをしていくためにも、発達などを学んでいきたい。
- ・ お母さんが安心感をもてるように、寄り添った伝え方をする。



大人の心の余裕が必要

- ・ イヤイヤ期の時期に、保育士等の声かけで子どもの気持ちも変わると感じた。
- ・ 保育中はその子に向き合うことに必死になってしまうので、大人も落ち着いてやりとりをすることが大事だと思った。
- ・ まずは受け止めて、待つ、という行動が大切だと話していました。
- ・ 禁止、制止の言葉かけより、上手な仕掛け等
- ・ 子どもの気持ちを尊重し受け止めるには、大人の心の余裕が必要と思った。



「他施設との交流・本音・共感」

- ・ 幼稚園、保育園、小学校、放デイ、療育など、違う視点からの意見や、普段されていることを聞くことができて勉強になった。
- ・ 小学校でも「主体的に」を重視していきたいと言っておられ、乳幼児期と繋がっているところだと思った。



明日からの実践で活かしたいこと

研修での学びをどう現場に落とし込むか、参加者の皆さんの実践への意気込みをキーワード別にまとめました。

1. まず「肯定」の言葉をかける

- ★ まず肯定の言葉をかけてから、見通しを持てる声かけをしていきたい。
- ★ 子どもたちの思いを否定から入らず受け止める関りを、心掛けたい。

2. 「待つ」・「間」を大切にする

- ★ とにかく、待つ。子どもの選択を尊重
- ★ 間や待つことを大切にしていきたい。

3. 次の「見通し」がもてるように声をかける

- ★ 次がイメージができるように言葉をかける。
- ★ 保護者に子どもへの声かけのタイミングや発達の見通しを伝えること



4. 子ども「一人ひとりに合った関わり」をする

- ★ 大人との信頼関係がとても大切な時期なので、丁寧に関わることをこれからも意識していきたい。
- ★ 子どもたちにとって安心してもらえる大人の一人になれるようにと思う。

まとめ

今回の研修では、「受け止める」「待つ」「タイミングを見極める」という、子どもとの関わりの本質について学びあうことができました。

この学びは、1～2歳児に限った話ではなく、学童期、成人期の人へも共通する大切な視点です。

子どもたちの一見「困った行動」に見える姿の中に、次の発達段階へ進むための力が蓄えられていることを忘れず、明日からの教育・保育実践の中で工夫していきましょう。

明日へのヒント

【ヒント1】「一番手は自我の主人公に」

- ・ 子どもの「今」を待ち、受け止める。
- ・ 「失敗から学ぶことが大切」という視点を持ち、自分で試して確かめられる機会と時間を設けましょう。
- ・ 年齢的な枠にとらわれず前段階に戻って支援する大切さを意識し、次へ次へと急ぐ方略を練る前に、その子の「今夢中になっていること」への共感と「締めくくり」としての気持ちのやり取りを丁寧に行っていきましょう。

【ヒント2】「ブラブラして生活を楽しみたい」

- ・ 2歳児を「ブラブラ期」と捉え直すことで、大人の心づもりにもゆとりが生まれます。
- ・ 「イヤイヤと言わせているのは大人」かもしれないという気づきを胸に、こだわりの順序や「デザートは最後」などのルールを大人の思いで押し付けず、子どもの気持ちの「流れ・盛り上がり」を読んで、ベストの声かけのタイミングや上手な「しかけ」を計っていきましょう。

【ヒント3】「保護者と同じ視点をもつ」

- ・ 発達段階を保護者に伝え、「なぜそのような関わりが大切なのか」を一緒に考える機会を作ることで、園・校と家庭が一体となった支援が実現をめざしましょう。